

月刊 いっぽ

vol. 23

2018年2月号

denken

いしてるコーナー (ICT)

新着情報

今月号は学校の無線LAN整備についてご紹介します。

○ タブレットPCや電子黒板・提示機器等の機器や無線LAN等のネットワーク、システムなどの構築にコストがかかることや、専門知識が必要となることで整備が進まず、教員や子供が使いやすい状況になっていない。また、授業に活用するためにどのような機器やシステムを整備すべきかの明確な基準がないため、地方公共団体や学校によって整備状況が異なる。

●「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ(文部科学省)
(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/07/_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375100_01_11.pdf P. 21)を加工して作成

学校の無線LAN整備には課題がいくつかあります。ただアクセスポイントを設置しただけでは、通信速度が遅い、うまく繋がらない、同時に何台も接続ができないなど、授業の遅延を招く恐れがあります。

アクセスポイントをどこに設置すべきなのか、外部の電波と干渉し合わないか、周波数はどうしたらよいか、考慮すべき点は多くあります。

日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)より、「学校の無線LAN導入・運用の手引き」が発表されていて、どのように整備を進めればいいのかガイドラインとしてまとめられているほか、設計仕様や機器仕様に関するガイドラインを掲載しています。

運用開始まで時間がかかるので、早めの検討が必要になります！！

今年1月にSONYからaiboが新発売されました。このaiboは開梱すると即座にモバイルネットワークに接続され、クラウド型AIサービスと接続されて、自律的な愛玩・犬型ロボットとして動作します。好奇心によって自分の意思で行動したり、その子にしかできない学び方で成長し続けます。他のaiboたちが学んだデータも集めて“ふるまい”も賢く進化していきます。環境や人との関係によって日々成長し、個性を獲得していくのだそうです。

AI(人工知能)やロボットといえば、「将来人間の仕事を奪うライバル」という捉え方をされることもありますが、私はゴーストの宿ったロボットと共存している未来が待ち遠しいのです。ターミネーターのT-800やアイ,ロボットのサニーのように。

★今日の一言★

2月といえば「うるう年」。4年に1回やってきます。太陽の周りを地球が一周する日数は、365日ではなく365.24190日です。うるう年は、その誤差を修正するために生じます。1年で0.2422日の誤差なので、4年で0.9688日の誤差となります。そこで4年に1回だけ1年を366日にして調整しているのです。

では、どの年が「うるう年」になるのでしょうか？

- (1) 西暦年が4で割り切れる年。
 - (2) ただし西暦年が100で割り切れる年は平年。
 - (3) ただし西暦年が400で割り切れる年はうるう年。
- 西暦2000年、2400年がこの例外に当たります。100でも割り切れますが、400でも割り切れるのでうるう年となります。先の西暦2000年は、400年に1度の修正となりました。

2月(日)

直
船
田
洋
平